

2016年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2016年9月13日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：五十嵐強、辻信明、野崎信行、渡辺裕一 <以上4名、敬称略、五十音順>
- 出席職員：小平福祉活動推進課長、飯塚ボランティア・市民活動センター係主任、
嶋田主事、長山コーディネーター

【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2016年7～8月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告(2016年7～8月)
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績(2016年7～8月)
- 資料 4：2016年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（9～10月）
- 資料 5：夏！体験ボランティア2016 参加者基本データ
- 資料 6：夏！体験ボランティア2016 学校・勤務先別参加者数および種別ごと参加者数
- 資料 7：2016年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 8：3係合同ボランティア講座企画書
- 資料 9：社会福祉法人西東京市社会福祉協議会組織図
- 資料10：ボランティアを活用する社協事業
- 資料別紙：災害ボランティア養成講習会 チラシ
- 資料別紙：ぼらんていあ倶楽部 第92号
- 資料別冊：2016年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>
- 当日追加資料：夏！体験ボランティア西東京2016 受入側アンケート結果

1. 報告事項

(1). 業務報告（2016年7月・8月）について

- 事務局より資料1～3に基づき、2016年7月から8月末までの業務について報告を行う。
- 質疑および意見
 - 委員：コーディネート実績表を見ると、ボランティアが見つからないケースがあったようだが、声を掛けても断られたということか。また内容的に難しい活動だったのか。
 - 事務局：探したがご紹介できるボランティアが見つからなかった。内容というより、夜間の時間帯に活動できる方が少ない。また、期日ぎりぎり依頼をしてくる場合もあり、活動できる方を探してはいるが、予定が入っている等の理由で見つからないこともある。
 - 委員長：夜の活動は一般的なのか、例外的なものなのか。
 - 事務局：定期的な活動以外にも季節的な活動もある。夜間に活動できる方が少ない中で、状況によってさらに少なくなることもある。
 - 委員長：月次報告にある、プロボノコーディネート研修とはどのようなものか。
 - 事務局：定年退職後等で自身が仕事などで培ったスキルを地域のボランティア活動に活かしてもら

うために、事業所の事務局機能とは別に、プロボノワーカーを育て、コーディネートも含めてプロボノの事務局機能をもってほしいという研修であった。プロボノをどのようにボラセンに取り込むのかを考えて参加したので、難しさを感じた。

委員長：社会人の地域参加において、プロボノとして定年退職した方に参加していただくことも1つであろう。

事務局：プロボノとしてWEB制作や金融関係などで関わっている方が多いようである。

委員長：動向を把握しておいた方がよいだろう。

委員：コーディネート状況等月次報告の相談受付状況の部分であるが、昨年度と比較し、相談の件数をきちんと挙げているという理解で良いか。

事務局：本年5月までは記録に残す必要がある重要な相談のみをカウントしていたが、6月以降は軽微な相談も含め、きちんと件数として挙げていくように切り替えた。

委員：ボランティア保険の加入状況は昨年度と比較してどのようになっているか。

事務局：年間加入者数であるが、2009年：3239件、2010年：3341件、東日本大震災があった2011年：4070件、2012年：3790件、2013年：3967件、2014年：3844件、2015年：3577件であった。大きな災害があるとボランティア保険の加入者数が増える傾向にある。

委員：保険加入者数は、ボランティア数が増える指標にもなるかと思っただが、天災等の社会的な影響を大きく受けることが大きいので、働きかけの成否の指標には使いにくいと感じた。災害後もその数字が維持されれば凄いことだが、社会的な影響を受けやすいという意味では安定しないのもやむを得ないだろう。

委員：行事保険はこの数に含まれるか。ふれまの行事で加入しているものは含まれているか。

事務局：行事保険は含まれていない。ふれまの行事で加入している保険も行事保険なので含まれていない。ボラセンでは2種類の保険を取り扱っており、ボランティアが個人で入るボランティア保険と、地域で行われる行事などの際に主催団体や参加者を対象に行事単位で加入できる行事保険がある。行事保険は数値化しにくいものとなっている。

委員長：一般の団体保険と個人保険というようなものか。

事務局：行事保険はボランティア活動に限らないので、少し意味合いが異なる。

委員長：コミュニティカフェの運営者が怪我をされて保険で助かったとの話を聞いたことがあるのだが、この場合はどちらの保険になるだろうか。

事務局：この場合は、ボランティア保険であると考えられる。なお、参加者が怪我をしてしまった場合は、ボランティア保険に加入されていたとしてもボランティア活動中ではないので対象とならない。コミュニティカフェという行事として行われ、なおかつ、行事保険に加入していた場合は保険の対象となる。

(2). 業務予定 (2016年9月・10月) について

○事務局より資料4に基づき、2016年9月から10月末までの業務予定について報告をする。

○委員長より9月2日(金)に行われた、区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員・センター長合同会議の報告がある。

委員長：報告とワークショップが中心の内容であった。印象に残った点としては、社協とボラセンと運営委員会の3つがどうか関わるのかという点である。また、運営委員会のタイプとし

て、①『諮問型』、②運営委員も動く『実践型』、③運営委員が主体となって動く『参加型』が挙げられていた。

事務局：都内83箇所のボラセンのうち36%が運営委員会未設置であることに驚いた。区部はさらに顕著であった。

(3). 夏！体験ボランティア西東京2016の実施報告について

○事務局より資料5～6および追加資料に基づき報告をする。

○質疑および意見

委員：募集で工夫をしたようだが、内容で例年と変えて実施した部分があれば教えてほしい。

事務局：募集についてはチラシの配布の際に児童・生徒に一人一人に手渡すように心がけ、ネット上では、募集・参加状況を随時掲載し、活動の際の持ち物もわかりやすいようにした。

委員長：受け入れ先へのアンケートで、小学生が参加できるメニューの項目を入れた趣旨は何か。高齢者施設に向けての設問なのか。

事務局：趣旨は、小学生の受け入れ先が減っている状況にあったため、設定をした。アンケートは、全受け入れ先69か所に出している。多くの受け入れ先から、活動の性質上、小学生の受け入れが難しいという回答が返ってきている。小学生の受け入れを増やす方法、改善できる点を今後検討する必要があると考えている。

委員：センターのミッションとして、福祉教育のことが常に話題に上がっており、力を入れる事業であると運営委員会でも共有されている。小学生が参加できるメニューをセンターで生み出し、受け入れることも必要だろう。できることを楽しんでもらえる活動ができると、小学生が増えても対応できるだろう。来年度は新しい展開としてぜひ検討してほしい。

事務局：年々、小学生の受け入れ先が減っている状況である。ご提案をいただいたような形で受け入れできれば、参加者数が増える効果が見込まれると考える。来年度に向けて検討したい。

委員：小学1・2年生が、事業の訪問に同行したり、水やりしたりする活動は可能だろうか。

委員：小学生がどんなボランティア活動をしているのかがとても気になる。小学1・2年生は、基本的なことから丁寧に教えていく必要があるので、活動内容は限定されてくる。センターで折り紙を折って在宅高齢者に届けるといった活動や水やりの活動も考えられるが、夏場なので安全面や水分補給等にも十分配慮して活動を考えないといけないだろう。

委員：小学校低学年のボランティア活動は、保護者と一緒に参加し、ボランティアを感じてもらう時期なのではないか。保護者に一緒に参加するよう声掛けをしたり、保護者の都合が悪い場合は、子どもと一緒に活動できる大人のボランティアを募るといった取り組みがあれば、小学生を受け入れていないところでも受け入れが可能になってくるのではないか。

事務局：保護者同伴で参加という形はすでに実施し、センターからも提案しているが、それでも受け入れが難しいという回答がある。また、低学年を受け入れてきた受け入れ先でも、高学年以上が参加対象になってしまうこともあるので、来年も同じ取り組みを継続しながら、新しいアプローチを考えるといったことが必要になると思われる。

小学生の参加者の活動状況だが、ほぼ半数は保育園で活動している。保護者同伴で受け入れ可能な3か所の保育園で活動した小学生が多かった。小学校低学年の参加者は高齢者施設に行っているケースがほとんどであった。障がい者関係は、点訳グループでの点字体験、

地域活動では古切手の整理活動をしている。

委員：防災関係の受け入れがない理由は何かあるのか。あまりそのような団体がないのか。

事務局：把握しているのは西東京レスキューバードのみである。来年度は、西東京レスキューバードにも声掛けをし、小学生を受け入れるプログラム、将来地域で防災活動してもらえよう意識を持ってもらう活動の場の提供をお願いできればと考えている。

委員：福祉施設は低学年の参加者を受け入れづらい状況だろう。国際関係で国際交流ができるプログラムを提供してもらったら小学生が参加しやすくなって良いのではないか。

事務局：国際関係も小学生が参加できるプログラムを提供しているところもあるが、時間や場所の条件で参加できない方が多いようだ。

委員：体験ボランティアなので作られた設定があっても良いのではないか。例えば、普段は夜に活動しているが、日中に活動を作っていただくこともあっても良い。

事務局：ボランティア活動なので、無理は言えないが、お願いとして提案はしていきたいと思う。

委員：それも全部含めてプログラム作りのサポートになると思われる。

事務局：小学生向けのプログラムが思いつかない可能性もあると思われるので、このようなプログラムが考えられるなどの提案をこちら側からしていく必要があると考えている。

委員長：もし低学年と高学年で差があるとするなら、データを分けて取る必要がある。全体数を増やすことが目的であるならば、ボランティア教育を進めるために中学・高校・大学の問題点は何かということも考える必要がある。基礎を作る上で小学生の受け入れが大切なら、もう少し企画を丁寧に考えるなど企画の組み立てをどうするかも考えた方が良い。年代別のカリキュラムも必要だろう。ボラセンは、ボランティア教育を進める拠点としてどのように普及させるかという原点作りをしようとしている。学校以外に地域を知る経験をさせることもボランティア教育であるだろうから、その部分も整理して検討してほしい。

委員：ゆめこらぼにも協力いただいて、利用しているNPOに受け入れ先になっていただく働きかけをしても良いのではないだろうか。

2. 審議事項

(1). 2016年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

- 2016年度第2回運営委員会の記録について確認を行う。一部修正を行い、確定稿とした。

3. 協議事項

(1). 今後の事業の方向性について（3つの柱の具体的な検討）

○事務局より資料9・10に基づき説明を行う。

○質疑および意見交換

委員長：社協とボラセンが対等もしくは別々である地域がある中、なぜ一つの係なのかという印象がある。ボラセンは社協の中でもっと大きな位置にあると思っていた。また、様々な形のボランティアがあり、錯綜している。これはこれまで議論してきたコーディネート機能強化やプラットフォームとしての役割をどのようにするかに関係しているのではないか。

委員：ほっとネットもボラセンも関わっている水やりのボランティア活動があるが、ほっとネットとボラセンと話し合っってボランティアを集めてやりましょうということになったのか。3つの係の中で、このような時はこうしようという話し合いの場もたれているのか。

事務局：改めて場を設けることはしていないが、事務局が同じなので、ほっとネットに入った相談でボランティアの活用ができるかと判断した場合に、ほっとネットから相談が入り、ボラセンがボランティアの紹介をするといった、一緒に一つの相談に応じていく形になっている。

委員：最初はほっとネットの職員から話しがあったが、ボラセン職員も同席することになったので、双方で話し合いがもたれるようになったのかと思った。以前ならそれぞれの係が単独でやっていたはずである。保谷庁舎の方も同じように連携できているか。

事務局：ほっとネットとは良い関係で連携させてもらっている。ほっとネット保谷ステーション等とも電話で連絡をとりながら連携を取っている。

委員：このようなことがうまくできるとボランティアの活動が広まってくると思われる。先に挙げたように3つの係が連携・相談して、ボラセンでボランティアを集めて欲しいという話になると違った活動になってくるだろう。連絡がスムーズにできるようになれば、活動自体が意義のある、納得でき、達成感のある活動になってくるのではないと思う。

委員長：月1回の課内会議はそういう形でされているのか。

事務局：それぞれの係の状況報告などの情報交換を毎月行っている。ふれまち、ほっとネット、りんくはそれぞれ4つの日常生活圏域に担当の職員を置き、ふれまちとほっとネットでは最低月1回の圏域ごとの打ち合わせを課内会議とは別に行っており、りんくも今後合流する予定。ケースごとに随時相談はしているが、ボラセンがこの調整会議との連携をどう構築していくかが課題である。一方、ボラセンの体制的な問題もあるので、4つの圏域に割り振ることは難しいだろう。だからと言って、ボラセンがないがしろにされてはいるわけではない。本部から離れている不便さはあるが、ベースがボラセンであることは3つの係では押さえているところである。そのボラセンをどう生かしていくかが今後の課題である。

委員長：市の地域福祉計画では市内を4つの圏域に分けて、8つの包括支援センターが各圏域に2つずつ入り、その下が西東京市の場合は小学校圏域のふれまちを移行してやろうという計画になっていると思う。そのようなものと併せてボラセンの位置付けというのは、わざわざ4つの圏域に分けず、統括するような役割なのではないかと思う。

事務局：それがプラットホームであると言える。

委員長：そうすると統括するポジションとしては、事務局的存在として関わるといったこともありうるのではないか。福祉活動推進課の3つのコーディネート係になるのではないか。

事務局：ふれまちもほっとネットもりんくも、そしてボラセンもそうだが、地域包括支援センターとの関係はかなり日常的に持っている。

委員：これまで3つの機能や役割を議論する中、良い部分や連携が出てきて、ボランティア活動が広がって良い活動になってきた。努力があつて今のような形が作ることができ、その枠組みでしっかりできていることも見えてきた。一方、プラットホームという言葉を使って議論し、将来、ボラセンの職員が充実した時は良いが、職員を見ているとギリギリのところまで今ある事業を一生懸命実施していることが伝わってくる。3つの役割等の理想像や新しい取り組みの提案もあるが、いま頑張っている事業を一つ一つ見てもらうようにしない

と、職員の業務量を考えた場合、かなり厳しいと感じる。職員から見て現実的に本音ではどうなのだろうか。一つの係として役割を果たしている中で、身の丈に合う一つの係として運営委員会がどう支えていくかを3つの柱を意識しながら考えていけたらよいだろう。

委員長：現実になればなるほど、いろいろなものが絡んで動かしづらい部分はある。ただ、上から降ろすということも大切である。東分庁舎とボラセンが離れていることで、ある意味並び立っている。現実には3係というのは並び立って動いているので休んでいられないと思う。

事務局：いろいろな制度が変わってきている中で、地域包括支援センターでも全世帯全年代対象型の新しい包括支援という国の考えが示されてきて、まだ正式ではないが、西東京市でもその方向で考えているようだ。恐らく社協もその中に絡んでくる。りんくも包括ケアシステムの中に生活支援という枠組みで入っており、これが新しくなるといろいろ変わってくるのが予想される。市から話しがきた時に、社協としてその中にボラセンをどう絡めていくか検討をする時が変えていくチャンスではないか。また、保谷庁舎の建て替えに伴い、数年後には事務所の移転も話が出てくるかもしれない。その時に、連携を取りやすいように、ボラセンはふれまちと同じ事務所で展開すれば機能が充実していくと思っている。

委員長：時間がないので、この件は次回に引き続き議論していくことにしたい。

(2). 3係合同ボランティア講座について

○事務局より資料8に基づき説明を行う。

○質疑および意見交換

委員：ある意味では今までの議論の一つの到達点なのかなと思う。ボラセンだけでやるのではなく、それぞれの係から力を出し合って実施されることがわかる。

委員長：「ボランティアはじめて講座」というネーミングは、ボラセンでやっている講座の延長のように見える。従来のはじめて講座とは違う、画期的なものとして始めるというネーミングを打ち出せると良かった。第2弾になるかもしれないが、3係に関わっているボランティアが、一堂に会した交流会のような形も今後実施しても良いだろう。今、活動をしている人たちの交流の中で、その活動をどう引っ張っていくかという趣旨の企画も欲しい。

事務局：まず第一歩として取り組み、今後、この企画を膨らませることができるようになりたい。また視点としては傾聴だけではないかもしれない。いま活動をしている人の交流プログラムも含め、様々な活動の視点を持ち合わせられる、あるいはそれぞれのプログラムで複数の視点を持ち合わせられるような3係合同の企画をしていければ良いと考えている。

4. そ の 他

(1).. 次回運営委員会開催日程について

■開催日時：2016年11月8日（火）18時30分～20時30分まで

■開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室

●以上をもって、2016年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。